

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和8(2026)年
2月号
通巻666号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和8年2月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷 監修
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



雪の拝殿・平成20年2月9日、18年目の帰幽祭の日(井手泉さん撮影)

昭和54年11月14日の対談の再編集版(当時、法主満68歳、竹内氏満54歳)

顕幽一如の世界 (最終回)

対談：法主 矢追日聖×竹内敏晴

出会いのレッスン

岸田 去年、三好さんが仲間の人達20人位と大倭へ来られました。あの時僕らも一緒に「出会い」というレッスンをやりましたね。始めに三好さんが説明してくれて、2人の人間が部屋の一方の隅ともう一方の隅に背中合わせに立って三好さんのボンと手を叩く合図で、お互いに面と向かいあって、あとは思った通りに動いてみよという、まあ、人と人が出会う場面ですね、そういうレッスンをやりました。その時に、竹内さんの所の若い人達が、集中力があるんですね。その集中力のあり方が、こちらのインチキを見抜こうという集中力というか一種の拒絶というか、それをすごく感じました。

竹内 あの人達は、人とうまく付き合えない人達で、ある所まで自分を高めた時には、裸になっってはつきり向かいあえるけれども、それ以前だったら逃げちゃうんです、僕に言わせれば。人を見抜こうという余裕までは無いですよ。

岸田 僕は「出会い」と聞いたから、まあ、やっぱり仲良くする事だと思ってね(笑)。それなりに真面目にやろうと向かいあったんだけど、非常に相手の表情が違うな、と思つて。これは大変だな、と(笑)。大変おもしろかったですけど。

三好 あの時はこちらの人達の事はあまり考えないで、僕らのグループのためだけにやったというところがあって、すごい乱暴な話だったんですけどね。僕らも

すごく沸騰してね(笑)。普通は、僕らのグループは、外へ行くと完全に拒絶されるんです。

竹内 こっちが拒否するんじゃないかな。

三好 ところがここでは、受け入れられたという感じもしないんだけど、拒否されたという感じは全然無いですよね。全然違うものでも、ここでは受け取ってくれるという感じだけは、皆、持つて帰ったんですね。

竹内 「出会い」で、片方が障害者で、片方が世に言うカウンセラーというのにやらせると、どの位くい違って絶対一つにならないか、というのがよく分かりますね。ああいう人が障害者の相談者になつてるかと思うと……肩書きのついている人は全部ダメという感じが最近するんですよ(笑)。この人は良い人だっているのは多いですよ。良い人だということ、障害者と触れられるという事は別ですね。ちょっと口はばつたいかもしれませんが、少なくとも言語の治療に係っている人達を考えると、善意は持つてるんだけどその善意が逆にあかん、一生懸命勉強すればするほど、相手のために本当はあかん事をやってる……ということか、そういう事ばかりこの頃見るような気がするな。

法主 竹内さんのところには、いろんな障害者も現在いてはるんですか。

竹内 障害者というか……いますね。

三好 どもり(※吃音)の人とか。

竹内 肢体不自由の人もありますけど、それが主という事では無くて、大体、社会生活ができそうできないというレベルの人が自然に集まってきちゃったのが多いですね。それ以外の人も、このところ来始めてる……。

ことういう所へ、よく分からんでやって来たのも、ちよつとどう言うたら良いか分からんですけど。

法主さんの場合は霊動という事で、他の人だとまた別の事が起こるのかもしれないけれど、とにかくそういうようなものが起こるような、ある状態なり場なりができなければ、結局もうどうにもならないでしょうね、きつと。

法主 ある程度、雰囲気というかムードというか、それがあれば早いですね。霊動を起こすような素質を持つてる人でも。

竹内 今は大体、これこれこういう方法を以つてことうやるべしという事で、治療でもする事が多いわけですよ。それがどうにもならないものだという感じが強いんです。

三好 ここだとそういうパターンの決まった方法がなんにも無いから、本当に場の問題だという事がよく分かりますね。

霊波長で感じる

法主 霊動はね、小学校位の子供ばかり集めてやったら、案外早よ出ますね。こつちの思いで指導すると、その通りになるんですね。例えば、つらつと一列に並べて、前の者の肩を叩くでしょ、そうすると、ずーっと全部叩いていきますね。それは子供自身の意志でやってるんでなしに自然に手が動くんやからね。

人間の体からは、霊波長というか動物電気というか、それがお互い皆、出てるんですよ。霊動起こしてる時なんか特にね。私も昔よく、霊動起こしてる人に実験しました。壁のこつちに私がおつて、向こうに人がおるようにするでしょ。そして、私が頭に手をのせると相手もちゃんとのせてる(笑)。それを横から人に見せてやる。それは何か有機的なものがあるという事ですよ。

和歌山の、うちの家内の里の方で、そんな実験、

大分してやった。その時、その田舎の人、皆、びつくりしてね。隣の家の屋根まで登って見とつたわ(笑)。巡查まで出て来よつたで。こつちがまるで超人的な力でもあるように思っやね。それでうちのおかちゃんも始めそれを見とつたんや。何と妙な人来たな、思とつたんや(笑)。ワシ、37歳位の時かな。まだ元気あつたしね。これは実験やぞ、神さんも仏さんも何にも関係無いんやぞ、と言うてね。人間の体からお互いに皆、出ているエネルギーというか、線のようなものがある事を教える意味においてね。まあそんなような事をちよいちよいやつて笑わしてやったな。

三好 さっきの、東京の空襲の時の話は目を閉じて……？

法主 閉じてても開いてもどつちでも見える。あれは心に映つてるんやな、肉眼で無く。私は、姿とていうか相で見える場合はあまり無いんです。殆ど皆、波長で来ます。

例えば、死んだ人が浮かばれてるかどうか見てくれとか、自分の家は何やつたつて悪う行くと、何か障りとか祟りがあるんじゃないかと言って聞きに来る人があるでしょ。そんな時でもたまには相ではつきり出て来る場合もある。それでも相というのは、人間の場合だったら、ホギヤと生まれた瞬間から50とか80で死ぬまでの生成していく姿が全部、相ですからね。その人生の中のほんの何分の一かのその瞬間の相ですわね。同じ1人の人間であっても、20歳の相もあれば幼児の相もある。その中で一番その問題に近い相が出るんやね。ことういうような顔で姿で、衣類はどうで年頃はどうか言うたら、たいいていびつくりしよる(笑)。でもそとういう経験はあまり無いですね。まあ、ここへ入つた時なんかでも、ここにおる固有霊が、姿を出して来る場合もあるし、また音で来る場合

もありますしね。例えば夜中に足音がして入口をギーッと開けて入って来る音がしたりね。

まあねなんかの時にそんな場合ありますけど、こちらが求めて分かる事というのはそう無いです。例えばこの人を見よかと思て、一生懸命見とったかて分からへんわね(笑)。それがまた話してる時にふっと見える場合があるしね。

岸田 竹内さんについて来ていると言われたのは、波長として感じるわけですか。

法主 そう波長として。姿やないです。姿で見えるのはごまかしよるからね。波長として来るのは、その人の本心というか霊波長として来るんやから、本体に間違いはないですわ。かなり古い武将の霊というか波長ですね。

竹内 はあ、そうですか、という感じで(笑)。あまり驚きはせんのだけれど。

法主 かなり力のある霊です。だから必ず、ずーっとあんたを指導してるんやなと思うんやけども。人間から言えば、例えば病気になつたら、悪い事されたと思うけれども、向こうにしてみれば、指導の方法の一つに使うという事やわな。

杉本 必ずしも崇りばかりじゃないわけですね。(笑) その辺が難しいところですね。

災難に会う

法主 私でも平素いろんな現象を経験してます。

例えば、外出する時に、石にでもポーンとつまづく事があるでしょ、そうすると必ず5分か10分、時間をずらして出て行きます。そのまま行けば車に当てられるとか何かの障害があるんです。ポーンとひつかかった時にそれだけ時間のズレが出るんですね。そういうような形で事前に事故を防止されるような事もよくあるんです。だから現実

起こる現象は何かの暗示やと思え、と、昔から言われてますね。

例えば人に蹴られたかて足を踏まれたかて自分でけつまづいたかて、ああ、これは何か教えられたな、何やるかと思うだけで、相手をどうこう思た事ないです。けれども、場合によっては、未然に防ごう思たかて、前から知られとったかて絶対に逃げられない、その日の災難という日があるんですよ。私も1回だけありました。大阪へ教導に行く日でしたけど、朝、出て行く時に一つの現象があつて、今日は災難日やと教えられたんですよ。

これはちよつと気をつけなあかん思つてね。まあある程度、自分のとらわれもあるわね。近鉄の富雄の駅まで、自転車で3キロか4キロ行くんですけれども、向こうから車が来たらもうパツと自転車から下りてね(笑)。鶴橋駅を下りて、広い道路を渡る時でも両方見て、どっちも車の無い時に行かなあかん思てね、10分以上かかった(笑)。それで用事済ませて、最終電車の1台前やから12時頃やつたかね、鶴橋の駅の改札へ入つたわけや。そこでもうやれやれと思たんやな。これで今日は助かつたんかいなと(笑)。

その瞬間が、こつちの隙やつてんな。階段を上がるうとした時に、その階段が瞬間に1枚の板になりましてん。踏もうとした時にすつと階段が消えてね。ゲタの歯が次の段にひつかかったんですね。カーンと右の眉の上を打つた。手をつかえる余裕もなんにもあらへん。階段の角に金(※磨耗防止用金具)打つてますね。20年以上になるけれど、押えたらちよつと痛い。目から火が出るであのこつちや、ここの骨折れたんですけれどね。でも、カーンといつた時ね、笑いが出たよ。よううまい事この際めがけてやつたなと思てね。見てた

人、気狂いになったんかと思たやろ、怪我してえらい血出てるのに笑てんねもの(笑)。感心してね。助役室でちよつと手当てしてもろて、あとはもう安心やし、また富雄から自転車に乗つて帰つて来たんですが、県道まで家内が迎えに来とつてね、いつもより遅いし、ここに白いの貼つとるし、そらびつくりしよつたらしい。あとは別に縫いもなんもせんかつたけどね。

それでもね、やつぱり小難で済んでるんやと思わ。そうでなかつたら命が無かつたかも分からんわね。自分にしたら災厄日やつてんやろね。何かの、そらまあ、過去からの因縁かもしらんけど。これは誰にでもある事やと思うんやね。よく交通事故で、車にはねられたとか言うとるやろ。あんなんでも私らの場合思たら、きつと予知してると思う。

杉本 しかし用心してる事が、災難の方へ持つて行つてる場合も無いとも言えんわね(笑)。そうやつてる事がひよつとしたら災難の方へはめ込まれてるのかも分からへん。その辺が難しいですね。竹内 人間が一生懸命用心しても、用心するという事は人間の計らいやから。

三好 どもりというのは、その予期なんですね。今度、どもるかもしれないと構えると必ずどもるんです。芝居やつても、その時言つてるセリフをその時ちゃんと言つてれば、絶対どもらないんです。

でもちよつと余裕があつたりすると、今言つてるのに、頭が一部分だけでも先に行くんです。次のセリフの事が一瞬でも出て来ると、もう次、どもるんです。予期があると全然ダメなんです。竹内 今に生きてなくて何秒か先に生きとるわけです。現在からはみ出したとたんにダメになるわけなんです。後に行く事もあるんです。

阿呆になる

三好 昨日、芝居をやってきたんだけど、それとの戦いみたいなもので。

竹内 集中するというのは、今、生きてるといっただけの事になる、という事ですねえ。

岸田 なるほど。

杉本 それももう、しょっちゅう、後へ行ったり前へ行ったり(笑)、振り子みたいなもので。ぱつと頭が抜けるというのは難しいな。法主さんは阿呆になったらええと、よう言わはるわけやけど。竹内 歩いてれば、すぐ分かりますよ。おかしな人がおりましてね。東大の先生で、呼ばれて、一緒にメシ食おうというんで。それがダーツとそば屋へ走って来るんですね。頭が先に行って足が後から来るんですよ(笑)。つまり現在歩いてるだけ体が邪魔なんですね。頭はもうソバ屋の中に入っちゃってる。それで体が仕方なく歩いてる(笑)。そういう体や、と言ったんです。

その人が、まわりを見て、いちようの葉がきれいだとか空気がどうか言うようになったら、大分人が違うやろと思うんですけども。大体、歩いてるのを見ると、先へ行ってる人が多いですね。今を歩いてる人はあまりおらんです。今の社会は、いつも先へ行ってる事ばかり強制されるからなあ。岸田 今度、歩き方というのをやってみようか。はい、歩いてって(笑)。

三好 それをやるんですよ。一人一人が歩いて、それを皆があだこうだと言ってるね。自分の歩き方というのはごまかしがきかないんですよ。いやでしょうがないんだけども(笑)。

法主 昨日は芝居をやって来たんですか。
三好 はい。神戸の湊川高校という定時制の高校

で。去年、大倭へも来たグループで、足尾銅山の鉱毒の被害で戦った人というか、田中正造って、明治の人ですが、その人の自伝をやったんです。自分たちで本をいろいろ調べて。

竹内 私は芝居の出身ですから、その方法論しか見つからないという事もあるけど、芝居というのは、体全体、心全体が動かなきゃいけないものですね。それが全然動かないわけですよ。この人達が芝居やるなんて、僕の所へ来た時のあの状態知ってる人だったら、考えられへん。

三好 田中正造を僕がやって。全力を出さないとなんにもできない連中ばかりだから、熱気だけはあるというか(笑)。でも何かあるものが伝わ

令和7年(2025)11月22日(ご自宅にて)

過ぎし日をふり返って——大倭の今昔を語る(下)

教長 矢追家麻呂(満87歳)

ロータリークラブの活動

—— 教長さんも苦労されたわけですね。

教長 苦労というのかわがままやからな。まあ苦労というより、今の言葉で言えば修業してたんかも分からへんな。

—— そのあと長曽根寮に行って、その時にロータリークラブにも行かれたんですか。

教長 ロータリークラブは長曽根へ行ってからや。隆義(※故矢追隆義)のおっちゃんが施設長で、俺が次長やってん。それでお前もこんなところばかりおつてもあかんねんから一回外へ行けというところで、学園前に嘱託医の福岡先生いてはって、あの先生がロータリークラブに入ってはって、それで俺はあの先生の紹介でロータリークラブに入

ったという感じはすごくあるんです。

竹内 終わっても誰も立たない。セリフの全然出て来ないやつもいてね。けど結局その人が一番受けてたね(笑)。その時に地が出て来て一番迫力が出るんですよ。

杉本 実はこのお話は、いづれ『とおやまと』紙のネタにしようと、テープレコーダーを回しております(笑)。

竹内 僕は、本当は昨日で疲れ果てましてね、今日はもう脱けがらや言うてたんやけども(笑)。

お話を伺いに来たつもりが何かこつちの話が多くて。今日はどうもありがとうございます。(完)

つてんや。今年でもう28年になるんと違うかな。

—— それもまた全然違う世界だったりしますよね。

教長 それはもう全然違う。金持ちの社長ばっかりやもん。下のもんでも次長とかそんな人ばかりで一般職員はおらん。

—— お付き合いはどんな感じでしたか。

教長 俺はこんな性格やから結構可愛がってもらうたで。今でもよう電話掛かって来るしな。饅頭くれたりな、今でもいっぱい送ってくれるねん。

—— 今もロータリークラブに入っているんですか。

教長 そうやな。もう俺も今年で辞めようと思ってるねん。ほんまはな、もっと早く辞めよと思ってるんだけどな。今年の会長が、「矢追さん、今年だけ頼むからおつてくれ」言うてやな。ロータリー

クラブというところはやっぱり人数が減ったら具合悪いからな。ある程度維持して行かんあかんやろ。今は60人ぐらいやと思うけど。

—— 新大宮のロータリークラブですか。

教長 奈良大宮ロータリークラブ。奈良市内は仰山あるねん。クラブが4つか5つあんなのかな。奈良クラブとか平城京クラブとか。

—— 隆義(※矢追隆義)さんはロータリークラブに入ってたんですか。

教長 入ってはらへん。そういう人達とお付き合っしてたらな、お前の人生にプラスになることいっぱいあるから入れと、あの人が言いよったんや。まあ人生勉強ですな。

教長 そういうことやな。だから俺、ロータリークラブで会長もしたし幹事もしたしな。親睦委員長とか、委員長はいっぱいしたわ。

—— ちょうど大倭安宿苑の事務局に僕(※岸田哲)がいる時に会長になられて、お手伝いをさせてもらったことがあります。ロータリークラブではどんなことが一番勉強になりましたか。

教長 みんな事業所のトップやけど、偉そうに言うのはおらへん。みんな平等に見はるからな。大きな会社の社長も



居るし、小さい会社の社長も、色んな人もおねんけどみんな平等や。だからお前とこは小さいからとこ、頭から偉そうに言うのはおらへん。

—— 一緒にボランティア活動みたいなことをするん

ですな。

教長 大宮のカーブミラー清掃したり大宮公園清掃したり、草刈りしたりとかな。それから佐保川清掃したりとか。

—— 結構肉体労働をするんですね。講演会とか勉強会とかありますよな。

教長 あれは「卓話」言うてな、そういう他所の人に來てもらうねん。

—— 中学とかで授業するようなこともありましたな。

教長 行つて清掃したりした後に生徒を集めていろいろな話したりな。三笠中学校が一番多かったな。

—— 会長とか大変だったんじゃないですか。

教長 会長は大変や。会長はやっぱり最初に挨拶せんあかんやろ。だから人前で話すこと増えたな。せやけど会長も1年やからな。2年も3年もせえへんもん。1年つて決まってるねん。その代わり秋になったら共同募金の赤い羽根運動。近鉄の駅前に立つてやな、来る人にお願ひして羽根を買ってもらうたり寄付してもらったりする。

法主さんが亡くなられて

—— 法主さんが亡くなって、バトンタッチする形で「法主さん神事」をやることになったんですけれども、法主さんは亡くなる前に、「お前やれ」みたいなことを言われたんですか。

教長 いやいや、そんななんも言うてはらへん。大倭のことはお前せえとこ、なんも一言も言われへんかったけれども、なんかみんながそない言うので、やることになってもうてんや(笑)。法主さんはな、別に俺がせんでも、誰がしてもうてもええねんって言うてはった。

—— そんな言い方をしていたんですか。

教長 法主さんそない言うてはったで。俺はいらん(※やらない)わつて言うててん。俺はそんな宗教みたいなんは分からへんしな。神さんもなんも分からへんし、いらんつて言うててん。そして、「お前いらんかったら誰かしてくれるやつおるかも分からへんわ」言うて、誰かがせんならんということはないつて言うてはったわ。せやけどなんや知らん、こないなつてもうてんや。

—— やっぱり自分でしなきゃつていう気持ちになられたんですな。

教長 しなきゃつていうよりもな、誰もしてくれへんから。まあ俺はこへ生まれた人間やから、なんかせんなんのかなと思うたんや。なんもしてへん、俺も祭主してるだけやんか。お詣りしてるだけや。

—— 最初の大仕事はやっぱり法主さんの帰幽祭の時やつたん違いますか。

教長 せやつたな、帰幽祭も大変やつたな。

—— 帰幽祭の時の祭主されたんですな。

教長 せやせや、あれからしてんな。

—— その前の1月、法主さんまだ車椅子かなんかで、拜殿来てはつたでしよ。

教長 そうそう。法主さんは車椅子やから言うてな、俺が下(※拜殿)でお詣りして聖歌歌うて法主さんは瑞光院ではつてん。

—— 前の年の東光大祭あるやろ、あの経木もな、俺は齋庭でしてんけどな、法主さんが瑞光院でもしてはつてん。法主さんが向こうでしてくればつたやつを齋庭へ持って来てもうて、もう1回俺がやつた。

—— 2重にやつたわけですか。

教長 そうそう。俺も分からへんけどな、分からへんなりにやつたわ。いやほんまはつきり言うてなんにも分からへんねん。霊界もなんにも分か

らへんしな。ただまあ法主さんの息子やいっただけでやな。

—— 教長さんは祝詞のりとをやってる時も話してる時も、すぐく込み上げてきたりすることがよくあるでしょう。あれって昔からそうなんですか。

教長 そうやねん、昔からやねん。たまにたまたまぐらい涙出てな、もう声詰まってしまいう時もあるねん。いつもではないけどな。なんかある時に自然になりよるねん。俺が意識してやってると違うねん。自然になってもうてな。声が詰まって、涙流したら格好悪いなど、心で思ってるねんけどな、もう涙止まらへんねん。

祭主としての現在

—— そういう時は原因が分からないというか、法主さんの姿が見えるわけではなくてですか。

教長 亡くならはって奥津城でお詣りした時に、1回だけ見たんかな。それもな身体全体見えへんねんで。こつから(※腰)上だけ見えんねや。髪の毛は伸びてるし髭は伸びてるし。眼鏡は掛けてはらへんかったと思うねん。怖い顔してはったわ。白い着物着てな。法主さんの奥津城の墓標があるやろ、そこへバアツと出てきはったわ。法主さんの姿を見たんは、それ1回だけやったわ。

—— その時はどんな感じ持たれましたか。

教長 いや怖いなあと思うたわ。その時にはな、俺祭主さしてもうてたやろ。法主さんが出た時にはな、やっぱり「お前もしっかりせえよ」と言われてんのかなと思ってるやな(笑)。終わってからな、石の裏を見に行ってる。ほんだら名前入ってたわ、俺とか明昌(※矢追明昌)とか、ボン(※杉本順一)ちゃんもあつたんかな。盛賢(※矢追盛賢)や中西(※中西正和)さんもな。

—— 今の石の墓標が出来てからの話ですね。

教長 出来てからや。だから出てきはったんやわ。

あの時は12月23日のお詣りやったんかな。法主さんの目つき違うかったで。怖い目つきやったわ。

—— ここにこ笑うてはいなかったんか。

教長 笑うてへん、笑うてへん。

—— それはちよつとビビりますよな。

教長 ビビるで、ほんまに。なんにも分からんもんがな、目をつぶってお詣りしててな、そんなもん出て来たら怖いで。いやほんまに。

—— その時は周りにも人はいたんですか。教長さんだけ見えたんですか。

教長 俺だけそれが見えて他の者は見えへんかったと思うわ。23日に、日聖祭の日に行くやろ。あの時はいつも思い出す。その姿や顔とか、やっぱり目に浮かんでくるわ。

—— それで込み上げてくるものがあつたりするんですか。

教長 詰まって声出えへん時もあるし、涙がバアアアと出る時もある。せやけど出えへん普通の時もあるねんで。

—— まあ法主さんの気を受けているわけですね。亡くなった人の思いが教長さんに来るんか。

教長 まあそうかも分からん。

—— 帰幽した方の五十日祭の時にはよう詰まってるはりますか。僕(※青山法義)はいつも横で見させてもらっているからよう分かるんです。

教長 よう分からんけどな、なんか自然にそうなってるやねん。

—— 印象に残っているのは、溝口ツヤ子さんの五十日祭の時やったか一年祭やったか、どっちか忘れたんですけど、「なんで他人の嫁さんやのに

俺こないして泣かなあかんねん」と言うて、みんなを笑わしてはった。せやけど、横で見たらあの時かなり辛そうでしたな。

教長 あつたな。あつたあつた。それは俺も覚えてるわ。せやけど、ものすごく堪えてんねんで。それでも堪えきれんようになってまう時あねや。

日々の生活について

—— 今、紫陽花邑の管理というか、いろいろな環境整備を中心になってやっていただいているんですけども、やっぱり法主さんから木のこととか、いろいろ聞いてきたことありますよな。

教長 あるよ。木は切ったらあかんとは言うてはったからな。自然に大きくしたれって。邪魔になつても、どこをどれだけ切ったらええとかな。せやけど俺すぐ切つてまうからな。

—— 昔、法主さんが教長さんのことを、神さんの怖さを知つとるからって言うてました。

教長 確かにあるで。成正坊さんあるやろ、あそこ松の木があつてん。それと教母さんの家のところにも木あつてん。それを邪魔になるさかい言うて、俺切つてもうてん。そしたら法主さんにえらい怒られてな。ほんでもうこれ腐らしとけ。腐らしとかなあかん言うてやな、法主さんが来てその木を一生懸命撫でてはったわ。それであそこに道みたいに入るようになってん。

—— 環境整備のこと随分気にされてるといえるはようですか。

教長 そらもうやっぱり人が来はるし、ここにも住んでる人もおるしな。やっぱりちゃんとしとかな。せやけどここはほんまに怖いとこや。それは俺分かっているねん。だからむやみにあんまりバサ

バサ切ったらええことないねんけどな。

—— あんまり大切にされて、教長さんが自分で草刈りしてはるからね、冷や冷やしますけども。

教長 一度東方の碑のところで土手からひっくり返って、血出して帰って来て嫁はんびっくりしとった。

—— 傷がまだ残ってるんじゃないですか。

教長 まだ残ってるやろ。ほんでな、12月23日前になつたら、また草刈つたろうと思ってる。いっぱい葉っぱとか出てきよんね。23日はみんなお参りするやろ。ちよつと綺麗にしとこうかなと思つて。

—— でもみんなが心配してるのは教長さんが元気でいてもらうこと。

教長 今日も病院行って診てもらうだけだ。俺は分からへんねんけど、なんか出来物が出来たんね。これを今度針で突いて出してそれを検査するねんて言うつたで。

—— レーザーでやるんではなくて。

教長 いやまだ切るとこまでは行かへんね。組織とって検査に出すねんて。これがまた痒いねや。大分ましになって来たけどな。

—— 教長さん、耳たぶがすごく大きいですね。

教長 大きいんと違うねん、腫れてんねん。ここが痒いからすぐ掻くねん。嫁はん怒るけどな。怒つても痒いもんしゃあないやないかって言うねんけどな。掻いた後がまた痛いねんや。ほんで俺なこの頃左の耳が聞こえにくいねん。そしたら嫁はん補聴器を買え言うねんけどやな、そんなもん付けてたら格好悪いやろ。

—— この頃若い子が付けてるような形の補聴器あるんですよ。

教長 あれみんな音楽聴いとるんねやろ。俺みたいな年寄りとかそんなん付けてたら、音楽聴いて

んのかと思われるがな。

—— テレビの声なんかはちゃんと聴こえるんでしょ。

教長 それはもう音大きいしたら聴こえるから大丈夫や。

『とおやまと』発行のこと

—— この頃若い人で大倭の法主さんの教えみたいなものに惹かれて来る人も結構出て来ているんです。『とおやまと』もネットで読んでる人多いんですよ。ここに1回も足踏み入れたことない人が、インターネットで『とおやまと』を読んだと言つて問い合わせが入っているみたいです。

教長 そうか。そやけど文化行事の話にしても文化講演会の話にしても、みんな協力してもうてるから出来とることであつてな。これはみな大倭の仕事の一環やと俺思うてんね。そりやまあみんな個々に得意分野があるからな。全てが全部ひとり出来ることはないねんから、出来る人達が揃つてくれるからこれ出来上がつて行くわけやろ。

—— 岸野さんが編集実務を全部やつてくれたいたんだけど亡くなったから、みんなでやらないと無理だつていうんで、今はみんな一生懸命やつてくれているんですよ。

教長 せやけど岸野さんも可哀そうやつたなあ、あんなところで倒れて。なんであんなことになるんやろなと思つてな。

—— でも2月9日に境内で倒れて本望だったのかも知れせんね。綺麗な顔してましたもん。

教長 あんなところで倒れるてな。そんな部屋で倒れるなら話分かるけどな。

—— でも逆に家で倒れてはつたら何日も分からなかつたと思います。倒れはつて20分もせん間に

茂毛諮園の職員さんが倒れてはるの気づいてくれたからね。

教長 せやけどな、考えたらむしろでも分からんけどな。

—— 教長さんがこれから若い人たちに期待することつて何かありませんか。

教長 いやそれはもう人間同士が仲良くするといふことやろ。いろんなことはあるやろうけどな。その時は感情で物を見て恨む時もあるかも知らんけどもやな、やつぱり本心から人を恨んだらあかんわな。

—— それが宗教心ということですね。

教長 そうやと思つて。いつも「教長さん、教長さん」て言うてくれよるから、「もうお前もあんまりそんなん言わんといてくれ」て、俺よう言うねんけどやな。せやけどああいう儀式とかいうのはやつぱり立場があるからな。それでまあさせてもらわなしゃあないけどな。そやけどな、やつぱり専門の所で修業している人は話の内容が違つて思うわ。俺なんかやつたらなんも考えんとその時の手当たり次第でしゃべつてるやろ。

—— あれがいいのだと思つてます。教長さんの話は味があつて、法主さんの話とはまた違う響き方するから。ちよつとでもししゃべつてくれることで、みんな安心するつていうのがありますから、あれは生きてる限り是非続けていたただかないと(笑)。

教長 来てくれはる人はやつぱりみんな仲良くせんなあかんとするからやな。誰とでも話が出るよう相手せんかつたらな。

—— 今日色々とお話を聞かせていただいたいてありがとうございました。

教長 すいません。忙しいのにわざわざ来てもらつて悪いこつちやな。(完) (敬称略)

あじさい日誌

1月9日 午後2時頃大城由香里さんの案内で、淡路市の奥野晃土さん、伊勢市の亀田夫妻。津田夫妻が来邑され杉本順一さんと歓談。会館で一泊され大倭神宮を参拝。

1月11日 恒例の「大とんど」神事の日でしたが、大変な風のため中止されました。

午後2時から大倭拝殿で祝会が開かれました。各目的「手紙」がテーマでした。

東京外国語大学の研究者が「交流の家」を訪問。戦後にキリスト教・フレンド派が実施した国際ワークキャンプやF.I.W.Cの初期の歴史について資料を探しておられ、交流の家の資料をお見せしました。

1月12日 午前11時から大倭会館で教長矢追家麻呂さんを祭主に故矢追美壽紀さんの五十日祭が行われました。

1月15日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。

この日は久しぶりに小金井市の山本あきさんと滋賀県の荒木女史が紫陽花邑に来られ、大倭神宮にも参拝されました。

1月19日 午前10時半から大倭大本宮拝殿において、大倭殖産(株)の事業関係各社さんの会・安全衛生協力会による安全祈願祭が行われました。

コロナのため参加者が限られていましたが、今年から久しぶりに大勢の事業者さんが参加されました。

1月21日 金澤秀朗さんに案内されて川崎市の近藤宏次朗さん、横浜市の中森ミカさん、摂津市の浦川美乃さんが大倭神宮参拝。後、紫陽花邑に来邑。杉本順一さんと歓談されました。

1月23日 午後2時から大倭大本宮の月次祭が行われました。この日は昭和38年1月23日の法話をお聞きしました。

1月30日 午後5時から本紙の編集会議が教務本庁で開かれました。

1月31日〜2月1日 交流の家で保管する資料のアーカイブ化に取り組んでおり、写真の整理や資料のリスト化などの作業を行いました。

2月1日 午前8時から大倭墓地と土師部社の掃除が行われました。

2月2日 午後1時半から教務本庁で3日の玉緒祭のための福豆を芝香須弥、中村千久佐、山崎留留茂さんのお3人で煎りあげてくれました。これから1週間くらいは、本庁は煎り豆の香りが占領してくれそうです。

福井市の齋藤正宏さんが9日まで、紫陽花邑の多宝塔を指す教務本庁の2階にある法主有縁の多種の記録の長期保存を始めてくださることにになりました。

た。この作業のベストパートナー(？)に大倉有宏さんが参加してくれました。

2月3日 午後2時から大倭大本宮拝殿において玉緒祭が行われました。この日は昭和38年2月3日の法話をお聞きしました。

2月6日 午後2時より大倭神宮の月次祭が行われました。午後6時半から大倭会館で邑倭の会が開かれました。

1月23日 午前11時より奈良市職員が来苑され、令和7年度社会福祉功労者厚生労働大臣表彰受賞2名への代理授与式が行われました。

1月26日 午前10時半より第4回新入職員研修会を開催し、9名が受講しました。(菅原園)

1月23日 2階交流ホールでコスメサークルを行いました。女性利用者だけでブラッシングをして髪に花の香を付けても喜んでもらえました。

2月3日 1階交流ホールにて衆議院議員総選挙の不在者投票(期日前)を行いました。選挙広報を真剣に見て検討する方や、初めから決めている方などもありました。また、自身で投票箱に入れる事により、自分が投票したと嬉しそうな方もいました。(須加宮寮)

1月15日 希望食事があり、

中華・お寿司・ピザ・うどん等、事前に好きな物を注文したものを食べ喜んでいました。

1月29日 数名のご利用者職員で、法人倉庫周辺の地域清掃を行いました。地域清掃の放送が流れると玄関前に集まり、箒・塵取り等必要な物を準備後、真剣に取り組みされました。(長曾根寮)

1月8日(特養)フロアにて正月飾りの中、正月に関わる音楽を流しながら福笑いをしました。

1月9日(デイ)皆さんに一年の願い事を絵馬に書いてもらいました。(茂毛諮園)

1月8日 新年のお祝いという事で昼食時に一人鍋(秋田県郷土料理のきりたんぼ鍋)を食べてもらいました。午後より1階あじさいホールで新春カラオケ大会を開催しました。

2月3日 節分で昼食時に巻き寿司が提供されました。午後からは1階あじさいホールで豆まきをゲーム形式(チーム対抗豆入れ)で、「鬼は外」と掛け声をかけて鬼を施設の外へ出す事に成功しました。

大倭会文化講演会

今年の大倭会文化講演会は秋ではなく、3月7日(土)になりました。

計報

令和8年1月20日、宗教法人大倭大本宮の評議員も務め、容子夫人とともに長年にわたり大倭とご縁の深かつた三重県名張市在住の且田英行さん(86歳)が御帰幽されました。令和元年の9月号の本紙「寸沙」第138回にも登場されています。



かつた三重県名張市在住の且田英行さん(86歳)が御帰幽されました。

あんない

*月次祭(大倭神宮)
3月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催祝会
3月8日(日) 午後2時より大倭拝殿にて。

*月次祭(大倭神宮)
3月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

*月次祭(大本宮)
3月23日(月) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

編集後記

今号で2つの連載が終了しますが、いかがだったでしょうか? ご感想を期待しています。 K

法主言の葉

一日一分でもその日の心の動きを反省する時間をもとう。